

クマ類の保護及び管理における現状の課題

1. クマ類の現状と 11 次計画の評価

12 次計画から整理した、全国のクマ類の現状、クマ類の現状および計画の内容に関する評価を表 1 に示した。

表 1 12 次計画から整理したクマ類の現状、クマ類の現状及び計画内容に関する評価

クマ類の現状	①分布域は四国地域を除いて全国的に拡大傾向である。 ②クマ類の生息数は横ばい又は増加の傾向である。 ③2010 年以降は、捕獲数が 2 年毎に大きく増減する傾向がある。 ④捕獲の内訳は許可捕獲によるものが多い。 ⑤人の日常生活圏へのクマの出没の増加が示されていた。
評価 (クマ類現状)	①第一種保護計画策定県では、ツキノワグマの生息数の回復、分布域の拡大がみられた。 ②第一種計画・第二種計画策定県ともに、農林業被害と人身被害の顕著な増加はなく、被害の減少または横ばいで維持した割合が高かった。
評価 (計画の内容)	①13 の計画で前期計画の評価と課題が整理されており、PDCA サイクルを意識した計画が増えた。 ②個体管理を記載した計画が 11 次と比較して増加した。 ③ほぼ全ての計画で捕獲上限値の設定に関する記載があった。 ④ゾーニング管理を記載した計画が増加した。 ⑤生息状況を把握するモニタリングが定着し、複数の手法を活用する都道府県が増加した。

2. 平成 24 年度に整理された 11 次計画の主要課題と評価

11 次計画期間では、2012（平成 24）年度に開催されたクマ類保護管理検討会において、クマ類の保護管理における主要な 10 の課題があげられた。それらの課題に対して、11 次期間中にガイドライン（平成 28 年度版）や保護管理レポートによって行った対応と、都道府県の特定期間からよみとった 12 次計画での反映状況を表 2 に示した。特定期間への反映が進んでいない課題については下線で示した。

表 2 11 次計画の課題と 12 次計画での反映状況

【課題①】 管理目標の 1 つである個体群の維持・回復を評価するのが難しい	
【対応】 ・ガイドライン：個体群のモニタリング方法の提示／個体群のモニタリングと施策へのフィードバックについての事例紹介 ・保護管理レポート（平成 24 年度）：個体数推定方法の紹介	【反映状況】 定量的なモニタリングが普及しており、多くの道府県で実施されている。
【課題②】 人間活動域への分布拡大防止（里山排除地域の設定等）の対策が必要	
【対応】 ・ガイドライン：ゾーニング管理の推進 ・保護管理レポート（平成 27 年度）：ゾーニング管理の取り組み事例の紹介／ゾーニング管理推進のポイント	【反映状況】 今後の運用状況をみて評価が必要である。
【課題③】 大量出沒が起ることを前提とした管理手法の検討が必要	
【対応】 ・ガイドライン：複数年単位での総捕獲数管理の提案／保護管理ユニットごとの捕獲上限数の設定推進	【反映状況】 捕獲上限値の設定が進んだ。
【課題④】 広域保護管理の取り組みが十分に進んでいない地域がある	
【対応】 ・ガイドライン：広域的な保護管理の推進／広域連携の事例紹介	【反映状況】 より具体的な連携内容となっている県が増えた。
【課題⑤】 モニタリングを含む保護管理に要する経費の確保が困難（既存予算も縮小傾向）	
【対応】 ・ガイドライン：広域連携による費用分担、予算確保	【反映状況】 一定のモニタリングが実施されている。

【課題⑥】 シカやイノシシの捕獲強化に伴う錯誤捕獲発生への対応	
【対応】 ・ガイドライン：ゾーニング管理による対応／広域連携による放獣体制の整備 ・保護管理レポート（平成 26 年度）：錯誤捕獲への対応	【反映状況】 実態把握、対策が進んでいない都道府県もあり、引き続き対応が必要である。
【課題⑦】 捕獲に対する社会的コンセンサスが得られにくい	
【対応】 ・ガイドライン：ゾーニング管理による捕獲対応方針の明確化／広域的な保護管理によるモニタリング精度向上・方針の明確化	【反映状況】 今後の運用状況をみて評価が必要である。
【課題⑧】 地域における野生動物の保護管理を担う人材の育成・配置	
【対応】 ・ガイドライン：人材の育成配置についての事例紹介 ・保護管理レポート（平成 25 年度）：人材の確保・配置についての事例紹介	【反映状況】 計画内で人材育成・配置に関する評価がないため、引き続き普及が必要である。
【課題⑨】 人身事故防止及び発生した際の対応における体制の整備	
【対応】 ・ガイドライン：対応や体制整備の推進／対応事例の紹介	【反映状況】 人身事故は大きく増加していないが、依然課題である。

3. 12次計画で対応が必要な課題

表2で示した12次計画で反映されていない11次計画期間から継続する課題と、12次計画の新たな課題を計画面、実行面から整理し、表3に示した。

表3 11次期間からの継続課題と12次計画の新規課題

内容	計画（Plan）の課題	実行（Do）の課題
<u>シカやイノシシの捕獲強化に伴う錯誤捕獲発生への対応</u>	・ 錯誤捕獲の情報収集が示されていない ・ 錯誤捕獲防止の普及が評価検証されていない	・ 収集した情報の活用が進んでいない ・ 錯誤捕獲防止が技術的に難しい
<u>地域における野生動物の保護管理を担う人材の育成・配置</u>		・ 専門的な知識、技術を持った人材の配置や育成が進まない
<u>人身事故防止及び発生した際の対応における体制の整備</u>		・ 関係機関（警察）と連携した情報共有と対策の実行が難しい
大量出沒年の捕獲数の評価	・ 大量出沒年の評価がない ・ 捕獲上限値を超えた捕獲数が続く場合推定生息数と捕獲数の実態に乖離がでる	・ 大量出沒の翌年のモニタリングが進んでいない ・ 捕獲上限値設定の根拠となる個体数水準（成獣個体数）の再検討が必要 ・ 捕獲上限値を超えた場合の対策の実行が難しい
出沒防止対策と生息環境管理の普及	・ 計画的な出沒抑制、被害防除対策が示されていない ・ 保護地域の生息環境管理が具体化されていない	・ 出沒抑制、被害防除対策が計画的に実施されていない ・ 対策の現状把握と効果検証が十分に行われていない ・ 保護地域の生息環境管理が十分に行われていない
ゾーニング管理の普及と導入に向けた調整	・ 各ゾーンにおける関係機関の役割分担と実施体制が明確でない	・ ゾーン設定に向けた関係機関との調整が難しい ・ ゾーニング管理の参考モデルとなる事例が少ない
ゾーニング管理の評価	・ 人間活動地域定着個体の動態の把握がない ・ 奥山（保護地域）の個体	・ 個体群動態把握のためのモニタリング技術の改善が必要 ・ 人間活動定着個体のモニタリ

	群動態の把握がない ・排除地域、防除地域での捕獲の評価がない	ングが普及していない ・排除地域、防除地域での捕獲と奥山の個体群担保を評価するモニタリングが必要
--	-----------------------------------	---

4. 課題の整理

○単年度の取組みが可能な課題（現時点で事例の収集や紹介が可能なもの）

- ・人身事故防止及び発生した際の対応における体制の整備
- ・シカやイノシシの捕獲強化に伴う錯誤捕獲発生への対応
- ・地域における野生動物の保護管理を担う人材の育成・配置
- ・ゾーニング管理の普及と導入に向けた調整

○複数年の取組みが必要な課題

- ・大量出沒年の捕獲数の評価
- ・出沒防止対策と生息環境管理の普及
- ・ゾーニング管理の評価

5. 保護管理検討会で整理すること

- ・先進事例の収集
- ・保護管理レポートによる事例紹介
- ・意見交換による提言
- ・人材育成研修
- ・特定計画策定ガイドライン